

東京 2020 オリパラ陸上競技救護活動調査に関する研究のお知らせ

帝京大学スポーツ医科学センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2023年9月13日～2024年9月30日

〔研究課題〕

東京 2020 オリンピック・パラリンピック陸上競技大会における傷害発生に対する観察研究

〔研究目的〕

オリンピックや世界選手権の陸上競技についての医務報告は、2007年の大阪大会以後、度々報告されています。これらは主に「大会中にどんな傷病が発生したか」をまとめたものとなっています。一方で、パラリンピック陸上競技の医務報告はほとんどなく、加えて、大会中の傷病などアクシデントに関連したスタジアム内での救護活動に関する調査報告はありません。また、東京大会は、猛暑・コロナ禍の特殊環境での大会となり、この環境の特殊性は先行研究と異なる傷病発生及び医務対応がなされた可能性も推察されますが、その詳細はわかりません。本研究の目的は、東京 2020 オリンピック・パラリンピックの陸上競技における医務活動、救護活動記録を分析し、大会時に発生した傷害発生件数、救護対応件数および、それらに伴う対応方法などを明らかにすることとします。

〔研究意義〕

競技会の安全対策に関する本研究の知見は、数少ないオリンピック、パラリンピックに代表されるエリートアスリートを対象とした陸上競技会の主催者が、今後、アスリートの安全を最適化するために準備する人、もの、しくみを知るために有用となると考えられます。

〔対象・研究方法〕

東京 2020 オリンピック・パラリンピックの陸上競技に参加し、医務活動または救護活動の対象となった陸上選手、オリンピック 約 200 名、パラリンピック 約 90 名とし、大会中の傷害数および傷害発生率、傷害発生地点、発生時期、傷害発生種目、性別などを調査項目とし集計します。また、救護対応事例においては、期日、年代、性別、傷害の種類、部位、救護発生地点、搬送の有無と搬送器材などについて記録したものを分析対象とします。

〔研究機関名〕

帝京大学スポーツ医科学センター

〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用されるデータは、個人を特定できる情報は含まれません。研究成果は学会や学術雑誌で発表を予定しますが、個人が特定可能な個人情報は利用しません。データは研究責任者のキャビネット内の HDD に施錠して保管されています。データは研究終了後、10 年の保管後に帝京大学スポーツ医科学センターにて廃棄します。なお、本研究では個人情報が分からない様に加工された情報を扱うため、データ使用の拒否について申し立ていただいても削除する対応は出来ません。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：廣重 陽介

職名 帝京大学スポーツ医科学センター・講師

所属：帝京大学スポーツ医科学センター

住所：八王子市大塚 359 TEL：042-690-5588（代表）〔内線 5588〕

E-mail: yosuke.hiroshige@gmail.com